

# 令和4年度 白川郷学園 算数・数学科研究構想

【研究主題】一人一人の学びが加速し、「先を読む力」を発揮する姿を目指して

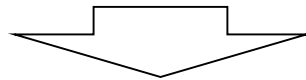
算数・数学部が育てたい「ひとりだち」した人物像  
 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、学ぶ楽しさや数学のよさに気付き、学んだことを日常生活や学習に活用しようとする人。

## 研究内容(1) 9年間を見通した「先を読む力」の明確化

前期課程		後期課程
低ブロック（1・2年）	中ブロック（3～6年）	高ブロック（7～9年）
・数とその表現や数量の関係に着目し、具体物や図などを用いて、問題を主体的、協働的に解決する。	・数とその表現や計算の意味に着目し、目的に応じて多様な表現方法を用いて、問題を主体的、協働的に解決する。	・事象を数理的に捉え、数学的に推論したり、批判的に考察したりすることによって、問題を主体的、協働的に解決する。

## 研究内容(2) 児童生徒の多面的な実態把握と手立ての明確化

【日常的な実態把握】	【客観的データの活用】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中のつぶやき・反応</li> <li>・学習ノート</li> <li>・評価問題の正答率（終末での評価）</li> <li>・課題解決に取り組む姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとのテスト</li> <li>・プレテスト</li> <li>・定期的なアンケート</li> <li>・ドリルパーク</li> </ul>



個に応じた児童生徒への手立ての明確化

## 研究内容(3) 一人一人の学びが加速する学習活動の工夫

○学ぶ目的や必然を感じ、見通しをもって課題追究する導入の工夫	○試行錯誤を生み出す展開の工夫	○一人一人が学びを自覚し、自分でできた達成感を得られる終末の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入段階で、「どうしてそうなるの。」「解いてみたい。」と思わせるように問題や課題提示の仕方、及び発問を工夫する。</li> <li>・どうすれば課題を解決できるのか、既習事項を振り返り、見通しをもたせられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを、仲間に主体的に根拠をもって話せるようにするため、交流の場の設定の仕方（ICTなどを活用）や発問を精選するなどの工夫をする。</li> <li>・個人追究では、個別最適な学び（自己選択する）ができるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間評価問題を設定し、一人ひとりの課題解決の実態を必ず把握できるようにする。</li> <li>・評価問題ができた子の意欲をさらに高められるよう、自己選択し進んで学習を行える工夫をする。</li> </ul>